

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070300601		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホーム サンシャイン		
所在地	群馬県桐生市川内1丁目322-1		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地			
訪問調査日	平成23年8月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人一人の能力に応じた掃除や食事作り、洗濯物干しやたたみなどを行って頂き、達成感をもっていただいて、理念にもとずいて日々実践している。</li> <li>・毎日、散歩を行い季節の移り変わりを感じてもらい、下肢筋力をつけ転倒防止をおこなっている。</li> <li>・餅つき、防火訓練、花火大会など、利用者、家族、地域との交流の場を作りみんなで楽しんでいる。</li> <li>・外食は毎月1回、地域のお店に行っている。買物やドライブ、花見等、週1回は出かけている。</li> <li>・食事のメニューは、その日に利用者様が食べたい物を聞くなどして決め、季節の旬の食材をとり入れている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>理念に基づいて、その方のできる喜びと達成感を大切に、個々にあったことをしてもらえよう働きかけ、その方の様子を見ながら負担にならないよう配慮しつつ支援し、職員が「ありがとう」の感謝の言葉を多く言える毎日となるよう取り組んでいる。また、職員の気づきや提案を活かしながら安全と自由を基に検討を重ね、以前に暮らしていた部屋を再現した居室づくりをしたり、仏壇へのお供えのご飯やお花を提供したり、NHKののど自慢への参加を試みたり、入居者のこれまでの生活を大切にしたい自由な暮らしを支援している。体内リズムを作り下肢筋力の低下を予防するための毎日の散歩や刺激や楽しみを目的とした出張美術館の観賞や季節の花見・バーベキューなどにも取り組み、楽しみがある暮らしを支援している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、職員が意識して、利用者主体に食事の準備や掃除洗濯と、日常生活の中で対応している。問題が発生すると、管理者、職員が理念のもとに話し合い対応している。	理念に、生活の張りや自分でできる喜びと達成感等を掲げ、理念を基に生活できるよう支援している。理念はパンフレットやおたよりにも記載され、常に意識した運営を心がけている。支援に困った時は職員同士で理念をもとに対応を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、ご近所には、お年賀の挨拶を行い、1月には地域の皆様や利用者、家族と共に餅つき、夏は花火大会などを行う。毎日、近所に散歩に行き挨拶を交わし、野菜や季節の花を頂いたりしている。防災訓練などは、回覧板を回してお誘いしている。	毎日の散歩で行き交う方と挨拶を交わし、野菜やお花を頂いたり、地域の方も招いての花火大会等行事を定例開催している。高校生や個人ボランティア・中学生の職場体験の受け入れを行い、運動会や合唱コンクール・文化祭等に出向いている。また、民生委員から地域の高齢者の相談を受ける等、ホームの力を活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんからの質問や困っている高齢者の住宅改修、福祉用具の紹介などをおこなった。地域の高校生ボランティア、中学生の職場体験、ヘルパー講習の受け入れを行っている。市で行った認知症の交流会の場として事業所を提供。管理者が相談に対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告、地域との交流や評価内容について意見をいただいている。意見はミーティング時に全員に報告して、参考にしている。	会議はホームからの報告や議題提供だけでなく、介護教室や体操等の情報収集の場としても活かしている。会議の意見を活かし、地域交流の拠点づくりとしてホーム道路沿いにベンチの設置を検討し設置予定である。家族には、ホーム便りで運営推進会議の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新申請手続きや、権利擁護を利用している利用者の相談、指導を受けている。2ヶ月に1回の運営推進会議に市職員さんに参加していただいている。	包括支援センター主催の介護教室に場所を提供したり、学生ボランティアの受け入れに対して送り出す側で事前の勉強会を開催することになる等協働し、認知症理解のため取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は、行っていない。安全に過ごせるよう代替のケアを考え話合っている。言葉の拘束も行わない様になっている。	契約書には、身体拘束をしないことを謳っている。ベットを使用せずマットレスや布団を敷く等、安全を考慮しつつ身体拘束をしないようにするためのケアを検討し取り組んでいる。玄関は来客を知らせるチャイムが鳴り、出ていく入居者にはそっとついていき、日傘を差し出す等行動を制限することなく支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修時に教育を受け、日頃の業務では注意を払っている。可能性のある利用者様が自宅に帰った際、帰設したら、入浴時に外傷確認を行ったり、家族のストレスを聞くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護を利用している入所者がいる。 必要と思われる利用者の家族に案内をして活用できた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前には必ず、見学をしていただき、その時点で説明をして、契約時にもう一度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に記載されている。玄関に意見箱が設置されている。苦情報告書があり理事長に報告、ミーティング時話し合い、活用している。	面会時にお茶を出す等職員は話しやすい雰囲気づくりを行っている。管理者は、どのような意見であっても職員に知ってもらうように「苦情報告書」に記載して、全職員に報告している。また、事例を通して、原因を検討している。その他、行事開催後は、家族等へのアンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事の際、家族にアンケートをお願いして、毎月のミーティング時に出た意見や提案を法人内で行っている運営会議に管理者が参加し、反映させている。 玄関に意見箱が設置されている。	ミーティングで職員の意見を聞き、物品の購入や制服の導入、行事開催の提案を活かし、家族交流会でのバーベキューに取り組んでいる。また、「チャレンジシート」により意見や希望を表せたり、法人職員による入職後等の面接等によるフォローがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でQC活動を行い、年1回発表会を開催。地域密着型サービス連絡協議会主催の事例発表会に参加して、向上心をも持つようになっている。 年に1回チャレンジシートを書き、反省と目標を職員一人一人が提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな所から送られてくる研修の案内を提示して自由に研修に行けるようにしている。順番に県で行っている研修や地域密着型サービス連絡協議会主催の研修に参加してミーティング時、行っていない職員にも伝えている。法人のOTや看護師、薬剤師、管理栄養士に講師を依頼し、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会が主催しているレベルUP研修に参加、他のホームに研修に行ったり、受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入所時に本人に面接したり入所前に家庭に訪問して、それまでの生活習慣を崩さないよう配慮し、話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時、利用者には必ず、家族とも面談や見学を行ってもらい話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は必ず介護支援専門員が対応して色々なサービスの利用も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の掃除や買い物、調理等を一緒に行い、終わったら必ずお礼や労いの言葉をかけている。暦の行事を大切に、利用者に関わりながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、本人が楽しそうにしていた事などをこまめに伝えている。月1回ホーム便りにて写真を載せ様子をお知らせしている。家族交流会を年2回行い、本人・家族・職員と楽しい時間を過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は家族以外でもいつでも受け入れ、家族以外の時は、後で家族に連絡をしている。	家族や近所の方が見えた時には、本人等に居室または共有スペースどこで会うかを聞き、お茶等を出してゆっくり過ごしてもらうようにしている。また、買い物の帰りに自宅近くを通るか声をかけたり、年末年始等家族が負担にならない範囲で家で過ごせるよう提案している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションに誘ったり、一緒に作業したり散歩の時などは職員が間に入りかわりの場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設等に入所した人には、お見舞いや面会を行っている。また契約が終了した家族の相談に応じている。7年前に契約終了した家族から、いまだにお花や物品の差し入れがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、生活歴を聞いてその人らしさを見つけ、本人中心のケアを心がけている。ケアプランに反映している。	その人のこれまでの生活を大切に、できることをして頂けるよう声をかけて、その時の様子等を見ながらその人にあったことをして頂けるようにしている。また、仏壇を持ち込んでいる方に仏様のご飯を提供したり、時にはお花を飾れるようにするなど、これまでの生活が継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族に聞いて、アセスメントを行い記録をとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームの1日の流れは決めてない。一人一人自由な日常が送れるように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント表や本人、家族の希望を聞いて、系列の管理栄養士、訪問看護師、OT等の意見も聞きカンファレンスを行い作成している。	面会時等に家族から意見聞き、作業療法士からアドバイスを受けながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日誌があり、昼は黒、夜間は青のボールペンで記入して、常に職員が把握できるよう個々の日誌と一緒にしてある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の病院や施設に優先的に利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回、自衛防火訓練を消防署の、協力のもと行っている。町会の文化展などに出かけている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。(専門学校生徒、踊り、大正琴など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医が全員いる。必要時往診や電話対応を見に来てくれる。職員が受診介助も行っている。	基本的に家族による定期受診を行い、入居者の状態を理解して頂くようにしているが、困難な場合には職員が対応するようにしている。週1回の訪問看護や往診等により、アドバイスを受けながら支援を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでいる。随時訪問、健康管理や夜間の急変時に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列に地域連携室があり、家族や病院の相談員とこまめに連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護師とこまめに連絡して、家族を含め話し合い、内容を職員に伝え情報を共有している。系列の訪問看護師による勉強会を開催。	医療行為が必要になった場合や食べられなくなった場合には、入院対応としている。本人や家族の意志等を確認し、医師の指導を受けながら、できるだけ対応しており、時には離乳食を取り入れるなど食べられるよう工夫しながら対応を検討している。そうした状況のなか医師による病状や治療方法の説明を重ね、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、職員全員が消防署の行っている救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがある。 年2回、地域の人達にも参加して頂き、消防署の協力のもと自衛防火訓練を行っている。水害時の連絡網がある。	災害時のマニュアルがあり、年2回消防署の指導の基、回覧板で案内をして地域の方も参加した避難訓練を実施している。地域の方には、入居者の見守りをして頂くことになっており、職員分担も決めている。また、常時食料等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは、一人一人の人格を尊重して苗字で呼びかけている。	呼称は苗字にさんづけで呼びかけ、一人ひとりができること・したいことを見つけ、して頂いた時には「ありがとう」の言葉をかけるよう支援している。また、入室の際には丁寧言葉かけをして、個々の生活を尊重する姿勢が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自分で決められるよう一人一人のレベルに合った話しかけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、特に決めていない。買い物等の誘いも声は掛けるが強制はしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときは、コートや帽子、よそ行きの洋服を選ぶ手伝いを行っている。本人や家族の希望により、髪を染めたり、パーマをかける等の手配をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感を取り入れた工夫を行っている。毎食、買い物から調理、盛り付け、食事、かたづけを利用者と一緒に行っている。毎食時テレビを消し、バックミュージックをかけ、職員も一緒に会話を楽しみながら、見守りして食事を行っている。	食事は大まかに朝食・昼食・夕食のメイン料理を決めて、バランスよく提供できるようにしている。食事中は気にならない程度の音量でバックミュージックをかけて雰囲気づくりを行い、職員は一緒に食事をしている。食事の「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつは入居者が行い、会話をするなど工夫をしながら食後の時間を過ごし、食べた後すぐに横にならないよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列の栄養管理士に定期的に献立をチェックしてもらっている。月1回、体重測定を行っている。10時、16時には希望のお茶を提供して、いつでもお茶が飲めるように食堂に用意してある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを利用者の能力に応じて援助している。週2回、入れ歯の消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄のパターンを観察、記録を行い、把握してトイレ誘導や便秘薬の調整をDr指示のもと行っている。	排泄パターンを把握するためそれぞれする動作やおならなどの観察を行い、時間だけでなく量も記録してパターンを把握し、失敗しないようトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品の提供と散歩、体操等を行っている。便秘ぎみの人は排便チェック表があり、個々の排便を把握し、必要な時は起床時に冷水を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったり入浴できるように対応している。2ユニットで交互に行っているため、希望する人には、毎日楽しんでいただいている。	1日おきに入浴している。これまでの生活に近い夕方入浴を試みたこともあるが、ゆったりした入浴できるよう昼間の入浴を行っている。入浴の順番を気にする入居者もいるので、不公平にならないよう交代で順番を決めている。季節には、りんご湯やゆず湯・しょうぶ湯等を行ったり、自分の好きなシャンプーを使用していた方もいるなど、楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩やレクリエーションを行うようにしている。夜間、眠れない利用者には、温かい飲み物を提供したり、小腹がすいた人には、おにぎりを提供して、話し相手をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬に携わっていて二重三重にチェックするような体制になっている。服薬リストも個々に管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせ、掃除や食事の準備、かたづけ、洗濯、草むしり等の役割を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日行い、希望があれば午前・午後にも散歩に出かけたり、買い物も週2～3回出かけている。個人的に買い物希望している時も一緒に出かけ選んでいただいている。	体内リズムを作り筋力を低下させないため外にでることを大切に考え、毎日散歩に出かけている。また、下見を重ね外食やさくら・はす・ひまわり・コスモス等季節毎の花見等にも出かけている。また、個人が希望するラジオの電池等を買い物に行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもと、お金を所持している利用者もいる。管理が出来ない利用者は、預かり、買い物時使えるようにして、毎月家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキは、常時用意してある。電話は、家族了解のもと、本人希望時に利用して頂いている。携帯電話を持っている人もいて、常時家族と連絡をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、自然光を採り入れている。利用者の生けた季節の花が、玄関や居間に飾ってある。	玄関にはベンチ・ホールにはソファを置き、寛げるよう配慮している。手作りのカレンダーやトイレの表示などわかりやすい工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、2人がけと3人がけのソファがある。和室には、冬は炬燵、夏にはテーブルを置いている。玄関には2人掛けの椅子、玄関先には椅子があり、自由に外をながめたり日光浴をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	炬燵や使い慣れた筆筒、椅子、家具、布団、日用品仏壇が持ち込まれている。	これまで通りの生活ができるよう一人暮らしでの炬燵やテレビ・ポット等の配置を再現した居室づくりをしている。その他、やしやごの七五三の写真等が飾られている。入居の際には、できるだけ家族等に使い慣れたものの持込みを説明している。持ち込みがない場合には、殺風景にならないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の中と外に椅子が用意してあり、座って靴を履いたり、日向ぼっこをしている。廊下や浴槽内に手すりがある。調理台や水道の蛇口が低く設定してある。物干し竿も低く、利用しやすいようにしてある。		